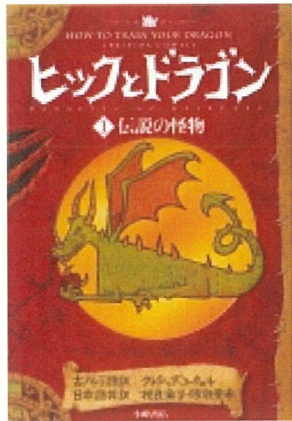


物語 『ヒックとドラゴン 伝説の怪物』 シリーズ1巻目



クレシダ・コーウェル/作 さがらみちこ すなみあき きょうやく こみねしよてん  
相良倫子・陶浪亜希/共訳 小峰書店

主人公は普通の男の子

主人公は、ごくごく普通の男の子ヒック。小さい頃からドラゴンが大好きで、ドラゴン語を話すことができました。

ドラゴン使いになるためには、入門テストに合格しなければなりません。まずは、洞窟に眠るドラゴンを捕まえ、そして、わがままなドラゴンを飼い慣らし、命令を覚えさせるのです。しかし、ヒックが捕まえたドラゴンはとても小さく友だちから笑われてしまいます。ヒックは、入門テストに合格出来るのでしょうか？

そして、嵐の日に、巨大なドラゴンが現れ、ヒックと小さなドラゴンと戦うことになりました。ヒックは、戦いに勝ち一族を守ることが出来るのでしょうか？

ヒックが書いたドラゴン語入門や、ドラゴン百科にも注目です。

物語 『くちぶえ番長』 重松清/作 新潮社

こんな番長がクラスにいてくれるといいですね

小学4年生のツヨシのクラスに転入してきたマコト。一輪車とくちぶえが得意で、ちょんまげのように髪を結んでいるのが特徴の女の子です。

マコトは、転校初日に、「わたしの夢は、この学校の番長になることです」と挨拶し、みんなを驚かせます。マコトの目指す番長は、“弱きを助け、強きをくじく”番長です。実際に、クラスで困っているお友だちの味方になったり、弱い者いじめをしている上級生にも立ち向かっていったりするのです。

マコトが番長を目指すのには理由がありました。小学校1年生の時に亡くしたお父さんから「カッコイイ番長になれ」と言われたからです。誰よりも悲しさを知っていたから強くなれたのです。

そんなマコトに影響されて、困ったことがあると逃げ出していたツヨシも成長し、クラスの絆も深まっていく物語です。



物語 『ここではないどこか遠くへ』 本田有明/作 みなはむ/絵 小峰書店



自分の悩みと向き合う旅へ

家庭環境に悩みを抱えている小学校6年生の4人組。全員の苗字に動物の名前が入っているので、グループ名はアニマルズです。

アニマルズは、小学校最後の夏休みに、「ここではない、どこか遠くへ」行きたいと、3泊4日で東京、松島、富士山、名古屋と、それぞれの夢の場所へと向かいます。

東京の人混みに圧倒されたり、富士山登山では気圧の変化と低酸素状態の環境に苦戦したりしながらも、励まし合って旅を続けます。旅を通して、お互いの悩みを理解し、気持ちに寄り添い、絆が深まっていきます。今しかできない青春の旅はどこか映画を見ているかのようです。

物語 『崖の下の魔法使い』 吉野万理子/作 宮尾和孝/絵 学研プラス

預けたい思い出ありますか？

鯨崎町の海岸にある思い出質屋と呼ばれる石造りの家には、不思議な魔法使いが住んでいました。この家は、子どもにしか見えなくて、魔法使いが20歳まで思い出を預かってくれるというのです。おまけにお菓子も出してくれるので、秘密基地のような場所でした。子ども達は、悲しい思い出や、嫌な思い出をした思い出を預けていました。

この町に転校してきたミケは、大河や夕紀とともに、思い出質屋に通うようになります。ある日、前の学校のクラスメイトからのメールを読んで、自分がいなくても楽しく過ごしていることを知り、胸を痛め、前の学校の思い出を魔法使いに預けようとします。しかし、大切なことに気づいたようですよ。

